

Station マスターの心得①

Ver.001 20011/11/30 現在

B+COM Station をバイクへ積載して操作するライダー、その名も「Station マスター」。
安全・快適で円滑なツーリングをしていただくため、Station マスターの心得を習得しましょう。
Station マスターはサーバーを管理する立場となるわけですが、グループ全体をまとめ端末となる各 B+COM の状態を把握することが重要となります。
「Station マスターの心得」を習得し、それをグループのみんなに伝える役割が求められます。
それが、誤解が無く、焦らない快適でスムーズな運用となります。

Station マスターの心得の重要ポイント

① SB213.EVO または SB213 は、Station 対応プログラムにアップデートが必要です

Station 対応プログラムに変更していない仲間がいる場合、動作が不安定になったり正しい機能として使用できない場合があります。できるだけ、前日に確認しておくことをお勧めします。可能ならば、積載可能な NET BOOK (Windows XP/Vista/7) を持参してもよいかも知れません。

② Station と接続時は携帯電話やトランスミッター等の接続はしないでください

Bluetooth は特殊なデジタル通信の暗号化技術により秘匿性はあるものの、同じ 2.4GH 電波帯を使用する Bluetooth 機器が多ければ多いほど電波干渉、出力障害が起り、通信不安定、それによるブロックノイズの発生等が考えられます。(全体の通話品質が通話できないレベルまで低下します)

Station に接続してグループ通話をする場合は、B+COM には Station 以外の Bluetooth 接続はしないでグループ通話を楽しみましょう。

また、Station を介さない B+COM 同士の接続もしないでください。同じ理由で通信不安定になる場合があります。

※基本原理として上記内容はあるものの、他機器を同時接続で通信安定があるプログラムを現在探っている状況です。

③ SB213/EVO のヘルメット装着状態が肝です

B+COM Station は、最大 6 人までの B+COM インカムマイクからの音声を、全て拾います。つまり 1 人でも、ヘルメットへのインカム装着の仕方が不適切で、無駄に風切り音やノイズを拾ってしまっていた場合、その耳障りな音を、漏れなく他のライダーにも伝えてしまうことになります。

インカムを通じて伝える音質は、ヘルメットへのインカム装着方法によって大きく左右されますので、必ず各ヘルメットに適した、正しい装着方法を理解し、全員に指導しましょう。

④ ノイズの種類は大きく分けて 2 種類あるので、違いを理解することが必要です

●マイクが拾うノイズがひどい場合

ヘルメットの種類やインカムの装着状態、バイクの種類により横風や走行速度により風切りノイズがうるさくて全員が不快に思うことがあります。その場合、問題の B+COM 側でマイクを OFF にすることで回避できます。

通話品質の良い順 ※バイクやヘルメット銘柄などでも変わります

SB213.EVO ×フルフェイス (チークパッドヘマイク)

SB213.EVO ×高性能ジェット (チークパッドヘマイク)

SB213 ×フルフェイス (チークパッドヘマイク)

SB213.EVO ×ジェット全般 (アームマイク)

SB213 ×高性能ジェット (チークパッドヘマイク)

SB213 ×ジェット全般 (アームマイク) ※不快なノイズの可能性大

◎上記はあくまでもインカムを通じて、相手に伝える音質の話

●接続が不安定な場合は通信ノイズが大きくなります

接続が安定していない場合、接続が安定していない B+COM 側からは「ブー、ブー」というエラー音が出力され、Station 側では該当の Link 番号が点滅します。その際、その他の B+COM では通信不安定による以下のような不快なノイズが全体で発生します。

「チリチリチリ・・・」 基本的な通信ノイズで不安定時に大きくなる

「ザザ、ザザザー・・・」 瞬間的に発生する

「ダッ ダッ ダッ」 連続的に発生する

「ビー・・・」 安定性がさらに悪い場合に発生する

「ギゴン、ギゴン」 ロボットが話すような機械的な音で通信不安定時だけでなく距離が離れた時に発生する

Station マスターの心得は随時更新していきます。
必ず最新版をご確認ください。

www.bolt.co.jp

Station マスターの心得②

Ver.001 2011/11/30 現在

Station マスターの心得のダイジェストです。各項目の詳しい説明を WEB サイトでご覧いただき、心得の内容を習得した上でツーリングに出かけましょう。

<ツーリング当日までにやっておくべき準備>

- ヘッドセット側のプログラムを Station 対応プログラムにしたか確認しましょう

<ツーリング当日、集合した際に、これだけは確認>

- 全員のインカム装着状態をチェックしましょう
- B+COM Station が無くても運用できるよう代替の意思疎通を決めておきましょう
- 携帯電話等全ての Bluetooth 機器の電源 OFF にし、B+COM をリセットしましょう
- ペアリングする前に、誰を何番にペアリングするか決めて覚えておきましょう
- 「Station マスター管理 NOTE」で全体を把握しましょう

<全員が揃い準備が整ったらペアリング>

- B+COM には、Station 以外はペアリング&接続しないで使用します (2011/11/30 現在)
- ペアリングは 1 番から順番に行い、ペアリング中は他 B+COM は電源を OFF にしましょう
- 全員のペアリングが完了したら Station マスターから全員に呼び出ししましょう
- インジケータで何番が (=誰が) 接続されていないか一目瞭然です。
- ヘッドセットのボリュームは全員「10」を基準にしましょう
- マイク OFF 機能 (B+COM 操作) のやり方を説明しておきましょう

<いざ、ツーリングに走り出したら>

- できるだけペアリングをした番号順で走りましょう
- Station マスターを列の中心に配置すると見通し最大約 200m になります
- グループ通話を利用して走行中の安全確認も全員で声を掛け合うよう促しましょう
- スピードの出し過ぎは禁物です

<何らかのトラブルかと思ったら>

- インジケータで何番が (=誰が) 接続されていないか一目瞭然です。
- マイクが拾うノイズがひどい場合は、マイク OFF 機能を使ってもらいましょう
- 接続が安定していない場合はノイズが大きくなります
- 接続が安定していない場合も焦らずに少し様子をみましょう
- 接続が安定していないのが続いたら不安定な番号を切断→再接続しましょう
- 接続が切れた場合は Station マスターから呼び出ししましょう

< Station 本機の注意点 >

- Station の電源は必ず Station 専用パワーケーブルをご使用ください。他製品はノイズが発生します
- 電源を ON 操作の長押しは Link インジケータ 1 → 6 に移動する間に手を離しましょう
- 電源の再起動をする際は、メイン LED の赤色点灯が一旦消灯するのを待ってから
- 3人~4人の場合は、Link No.1-3 と 4-6 で人数を振り分けてペアリングを行いましょう